



南葵音楽文庫ミニレクチャー

## 1921年5月 巴里の頼貞

～プロコフィエフとの再会

近藤秀樹

2019年4月27日（土）11：00

南葵音楽文庫  
和歌山県立図書館内  
和歌山市西高松 1-7-38  
tel. 073-436-9500



▲ 徳川頼貞

### I. 徳川頼貞の第二次外遊とパリ滞在

1921年1月25日、神戸出版の郵船加賀丸で、第二次外遊に出発。

→マルセイユに上陸→ニース→モナコ(車で移動)、モンテカルロ歌劇場で『魔笛』を観る。

→ローマでプッチーニ、ニキシュ(指揮者)、ブゾーニ(ピアニスト、作曲家)に会う。

→フィレンツェ→ヴェネツィア

→5月1日にパリに到着。シャンゼリゼ大通りの「ホテル・クラリッチ」に逗留。

パリ滞在中に、ホルマンとともにサン=サーンスに会う。また、同じくホルマンとともにダンディに会い、その後スコラ・カントルムにダンディを訪ねる(2019年1月6日のミニレク)。

プロコフィエフとも再会する。

→その後、ドイツ、イギリスへ。

### II. プロコフィエフとの再会

後になつて、大正十年の春、第二次外遊の際、巴里のテアトル・シャンゼリゼーで偶然プロコフィエフと邂逅した。それはロシアン・バレエの會で、ストラヴィンスキイの「火の鳥」や「春の祭典」などが公演されたが、その時私の直ぐ近くに、プロコフィエフ君がモノクルをかけた紳士と坐つてゐた。私を見付けると彼は休憩時間に私の處に来て、久し振りに相見る喜びを顔に現はして再會を祝した。そして、日本を立つてから米國を通り巴里に来て、今は此處で自分の仕事に没頭してゐると語つた。また、自分と一所のボックスにあるのはストラヴィンスキイだ。彼にあなたの事を

話したらお目に掛かりたいと云つてゐるからお會ひになりませんかといふので、私はプロコフィエフの紹介でストラヴィンスキイと握手した。

ストラヴィンスキイは見た處よりずっと社交的で話も上手であつた。舊知のプロコフィエフはどちらかという言葉の少ない人であつたが、ストラヴィンスキイはよく話した。ストラヴィンスキイは私に、自分は巴里の興行が済むと伊太利に行かなければならないが、秋には巴里に歸つて来るから、その時はゆつくりお目に掛つて色々お話がしたいと云つた。けれども私はその年の秋の始めには米國に渡つて仕舞つたので、遂にストラヴィンスキイと再會することが出来なかつた。それから二年後、大正十二年の九月、関東大震災があつた時、プロコフィエフは大變新設な見舞状を呉れた。彼は友情に厚い人である。

『蒼庭樂話』(普及版) pp.199-200.

### 再会の場所

「テアトル・シャンゼリゼー(シャンゼリゼ劇場)」は、「ゲテ・リリック劇場」の間違い。

ロシア・バレエ団の1921年春のシーズンは、「ゲテ・リリック劇場」が会場。頼貞の記憶違いか？

### ロシア・バレエ団の公演スケジュール

5月17, 18, 22日: 《道化師》(新作)《クアドロ・フラメンコ》(新作)《火の鳥》《イーゴリ公》

5月19, 21日: 《三角帽子》《パレード》《クワドロ・フラメンコ》《ペトルーシュカ》

5月20日: 《レ・シルフィード》《道化師》《クワドロ・フラメンコ》《イーゴリ公》

5月23日 ストラヴィンスキー・ガラ(《火の鳥》《ペトルーシュカ》《春の祭典》)

『蒼庭樂話』の記述と照らし合わせるなら、

- ① 頼貞がプロコフィエフと再会したのは、5月23日。
- ② 会場はゲテ・リリック劇場。
- ③ ストラヴィンスキーの三大バレエを観賞。
- ④ 新作バレエ《道化師》(プロコフィエフ)は観ていない……？

## Ⅲ. プロコフィエフのバレエ音楽《道化師》

セルゲイ・ディアギレフ率いるロシア・バレエ団(Ballet russe)のために書かれる。

正確なタイトルは、《7人の道化師をだました道化師の物語》。

当初、プロコフィエフはバレエ《アラとロリー》を作曲するも、ディアギレフから却下される。

→《アラとロリー》は管弦楽曲《スキタイ組曲》作品20に改作。

1916年初演。

→これと並行して、バレエ《道化師》作品21を作曲。

1915年夏にいったん完成。

第一次大戦&ロシア革命により、すぐには上演されず。

初演は1921年春に持ち越された。



▲ プロコフィエフ (マチス画)

## プロコフィエフ 年譜 1914-21

- |            |   |
|------------|---|
| 1914 大正 3  | ルビンシテイン賞を得てペテルブルク音楽院卒業。ロンドン演奏旅行。ロンドンでディアギレフに会い、バレエ《アラとロリー》に着手。  |
| 1915 大正 4  | 《アラとロリー》却下。かわりにバレエ《道化師》に着手、夏に完成。  |
| 1916 大正 5  | 《アラとロリー》をもとに《スキタイ組曲》を完成、初演。   |
| 1917 大正 6  | 《束の間の幻影》、交響曲第 1 番《古典的》完成  |
| 1918 大正 7  | 5 月、革命を逃れてペトログラード出発。ウラジオストックから日本へ<br>5 月 31 日、敦賀上陸。6 月 1 日、東京着<br>7 月 2 日、大田黒元雄と会う<br>7 月 6・7 日、東京、7 月 9 日、横浜でピアノ・リサイタル開催<br>7 月 12 日、徳川頼貞と会う<br>8 月 2 日、横浜を出港。ホノルル経由で 8 月 21 日、サンフランシスコ上陸<br>9 月 19 日、ニューヨーク到着 |
| 1919 大正 8  | 1 月、ニューヨークで山田耕筰と会う。歌劇《3 つのオレンジへの恋》完成  |
| 1920 大正 9  | パリでディアギレフと再会。ディアギレフの要請で《道化師》を手直し  |
| 1921 大正 10 | 春、《スキタイ組曲》フランス初演(クーセヴィツキー指揮)<br>《道化師》初演。徳川頼貞と再会<br>夏、ブルターニュ地方で《ピアノ協奏曲第 3 番》完成   |

## バレエ《道化師》のあらすじ

このバレエの台本は、アフナシエフの有名な『ロシア民話集』のなかのペルム地方の二つの民話を基にして作られた。七人の道化師と一人の金持の商人をだますことに成功した道化師の話である。

ストーリーはこうである。その道化師は妻と共謀して、妻に死んだふりをさせ、魔法の鞭で打つと再び生き返るといふからくりをする。彼はそれにせの鞭を七人の道化師に法外な値段で売りつける。早速効力をためすため、七人の道化師は妻を殺してしまうが、もちろん生き返らせたりできない。だました道化師は、いちはやく自分の妻を隠し、みずからは料理女に変装して復讐の目をごまかす。しばらくして一人の金持の商人が、七人の道化師の娘たちのうちから嫁を選ぶためやってくる。だが変装した料理女が気に入った商人は、彼女を妻に迎えようとする。料理女に変装している道化師は、商人の部屋の窓から一本の綱で逃げ出す。追った商人がその綱の先に見出したのは、妻とすりかわった山羊だった。そこへ変装をやめた道化師が現われ、料理女を返せと脅迫する。かつがれたとも知らぬ商人は、ひらあやまりにあやまり、多額の弁償金をだしてやっと許してもらう。……他の道化師たちも再び現われ、最後に全員の変装が展開する。

スタイルの点で、ディアギレフは、彼のもとでバレエ装飾をしていた画家ラリオノフの「プリミティヴィスム」に似合った曲を望んでいた。そのプリミティヴィスムは、いふなれば極度に単純化した土俗的にした気取らないロシア風「エピナール版画」の美学であった。

(ミシェル・R・ホフマン『プロコフィエフ』清水正和訳、音楽之友社、p.137-138)

#### IV. そのころシャンゼリゼでは……

5月19日～29日

モダンダンス・アマ・プロ世界選手権(『コメディア』誌主催)

Championnat du monde de danses modernes amateurs et professionnels (organisé par la revue Comoedia)

6月3日～26日

スウェーデン・バレエ団公演 Saison Ballet Suédois

・バレエ《男とその欲望》*L'Homme et son désir*

音楽: ダリウス・ミヨー 台本: ポール・クロードル

・バレエ《クーブランの墓》*Le Tombeau de Couperin*

音楽: モーリス・ラヴェル

・バレエ《エッフェル塔の花嫁花婿》*Les Mariés de la Tour Eiffel*

音楽: フランス6人組の合作 台本: ジャン・コクトー

6月17, 27, 28日

ルイーシ・ルツソロ (Luigi Russolo, 1885-1947) による「未来派騒音音楽」コンサート。

マリネッティ (Filippo Tommaso Marinetti, 1876 - 1944) によるプレトークあり。

#### スウェーデン・バレエ団 (バレエ・スエドワ)

- ・1920年～1925年の5年間だけ存在したバレエ団。ロシア・バレエ団最強のライバル。
- ・スウェーデンの裕福な大地主ロルフ・ド・マレが主宰。
- ・黒人文化やジャズの要素など20年代パリの最先端の流行を取り入れる。
- ・パリのシャンゼリゼ劇場を買収して拠点とし、西欧各国、アメリカで活動。
- ・中心人物: J・ボルラン。振付、ダンサーの教育、プリンシパルの三役をこなした。
- ・美術面ではボナール、レジェ、デ・キリコ、F・ピカビア、藤田嗣治などが参加。

[参考: 現代美術用語辞典 [https://artscape.jp/dictionary/modern/1198450\\_1637.html](https://artscape.jp/dictionary/modern/1198450_1637.html) ]

おわりに アート沸騰の巴里

1923年当時のシャンゼリゼ劇場 ▶

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b531129378/f2.item.r=%22Fernand%20L%C3%A9ger%22>

